

2025年9月21日 南板橋教会 召天者記念主日礼拝 聖霊降臨節 第16主日 週報番号3482号

説教題：「**信仰による天の故郷（こきょう）**」

聖書箇所：ヘブライ人への手紙11章1-3節、13-16節（414、415頁）

説教者：秀島行雄牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 53 交読詩編：詩編119編65 - 72節（134頁）

讚美歌：83/11（感謝にみちて）/111（信じて仰ぎ見る）/404（あまつましみず）/27

「今週の聖句」〔…ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。…神は、彼らのために都を準備されていたからです。〕（ヘブル書11：16）

「牧師室の窓」 「かの日々の姿思いて懐かしき遺影を見れば声が聞こゆる」

「信仰の先達想い懐かしみいつか会い見む天の国にて」

(1) 皆様おはようございます。本日は皆様と共に召天者記念礼拝を献げることに感謝いたします。召天者の方々のお名前が本日の週報に記されており、先程、読み上げられました。その方々の中にはお写真がこちらに配置されています。普段は収納・保管されており、召天者記念礼拝では扉を開けて、ここに集う皆様と共に礼拝のひと時を共にする機会が与えられます。召天者の方々のご存命であれば今年は何歳になられるのでしょうか。先週、NHKの番組で、日本で一番長生きをされている方を紹介した番組が放送されていました。1911年(明治44年)生まれの方でした。お手元の週報にお名前が書かれておられる方々に明治生まれ、大正生まれの方もおられることでしょうか。今年は何歳の年号で言えば、昭和100年です。NHKのラジオ放送が開始されたのも100年前、この100年間に日本の社会は大きく変わりました。直近の50年間でも大きく変わりました。皆様がお持ちのスマートフォン電話がそのことを象徴しています。

(2) 先程、皆様と共に読み合わせをしました詩編119編の箇所には、金(輝く金属の金)のことが書かれています。何と書かれていますでしょうか。〔(詩編119編65節)主よ、あなたの御言葉のとおりに／あなたの僕に恵み深くお計らいください。(66節)確かな判断力と知識をもつように／わたしを教えてください。わたしはあなたの戒めを信じています。(72節)あなたの口から出る律法はわたしにとって／幾千の金銀にまさる恵みです。〕金のことは旧約聖書創世記第2章に書かれています。エデンの園に川が流れており良質な金があると書かれています。

私は学生時代に金のことを調べました。金属としての金、鉱山、宝飾、人口衛星に必要な金、世界経済の基盤としての金などなどです。第2次世界大戦が終結する1年前の1944年(昭和19年)7月、戦争終結後の世界経済の大枠を定める会議に45か国が参加して決定されたのです。

日本はそのことには全く知らずに、全く関心がなく、戦争に明け暮れて多くの命が失われ破滅へと向かっていました。戦争終結後の世界経済の枠組み(フレームワーク)を定める会議です。

その最重要課題のひとつは金の値段を決めることでした。金の重さ約31グラムを単位し、その値段をアメリカドルで35ドルと定め、自由貿易発展の基盤としたのです。併しその27年後、私の学生時代、1971年の8月15日にその協定は破綻し、日本では1ドル=360円の固定相場は無くなりました。直近の金の値段は当時の35ドルから、100倍以上の値段となり日々変動しています。その様な歴史の変動の中であって、聖書の御言葉は何と言っているのでしょうか。先程の詩編119編の奥深さが私たちに生きる勇気を与えてくれます。ポイントを確認しますと、〔(詩編119編65節)…あなたの僕に恵み深くお計らいください。(66節)確かな判断力と知識をもつように／わたしを教えてください。…(72節)あなたの口から出る律法はわたしにとって／幾千の金銀にまさる恵みです。〕

私は就職して40数年間様々な会社との取引などお金に係わる仕事をしてきました。人間の人生にとって聖書の御言葉が「確かな判断力と知識をもつ…幾千の金銀にまさる恵み」であることを体験してきました。そういう体験からすると日本の教会は足元がふらついている、御言葉の伝道が中

途半端になっていると感じています。世界中の戦争や暴力や食料飢餓のこの現状に、見ざる・聞かざる・言わざる、であってはなりません。聖書に耳を傾けて、この社会に聖書が語る平和への御言葉を伝えなければなりません。

(3) 本日の聖書箇所、ヘブライ人への手紙11章を読んで参りましょう。まず始めに「ヘブライ人の手紙」がいつの時代に書かれたのかと言いますと、2つの見方がありまして、1つには、エルサレムがローマ帝国との戦争によって破壊される前という見方、つまり、西暦70年よりも前と言う見方です。エルサレム市内の著名な場所として「嘆きの壁」があるのは、その戦争で破壊された神殿の痕跡です。2つには、当時のキリスト教がユダヤ教のひとつと看做されていた集団(つまり、イエスを救い主とする信仰集団)がユダヤ教からもローマ帝国の宗教政策にも従わない集団として迫害を受けつつも、新しい信仰集団としての足固めをしていた西暦90年代です。イエス様が亡くなられて60年程経過した頃です。この頃には口から口へと伝えられて来たマルコ・ルカ・マタイによる福音書が書物となり教会の礼拝の中で読まれていたと思われます。序で乍ら、ヨハネによる福音書が出来上がるのはまだ先で、西暦90年～125年頃と考えられています。

話を元に戻しまして、ヘブライ人への手紙が書かれた時代は、キリスト教としての自覚が形成されつつありながらも、ユダヤ教の伝統に戻りたいとの思いを持つクリスチャンもいた時代と考えられます。例えてみれば、よちよち歩きで一步二歩を踏み出したものの、元のユダヤ教に戻るのか、或いは、第三步(ジャンプ)を行なうことが出来るのか否かの、丁度、不安定な迷いの中にあると言えましょう。…私たちの人生にも、そのような中間にいる場合がありますでしょう。決断をしようにも決断をすることが出来ない場合もその様な時であります。

(4) そこでヘブライ人への手紙は、当時の人々に勧めの言葉、勧告をしているのです。特に注意すべきは「似て非なるもの」(つまり、似てはいる様であるが、異なるもの)を見る目を養う、区別する目を持ちなさいと勧めているのです。現代の私たちの身の回りにも、見掛けは似ているが、実は異なるものが沢山あります。卑近な例で言えば、オレオレ詐欺も、振込み詐欺も、…そうですね。私が持っている資格で消費生活アドバイザーと言う資格は更新のためには5年ごとに研修を受ける必要があります。これだけ世の中が目まぐるしく変化していますので研修は必要と思います。学校の先生もお医者先生も牧師にも資格の更新制度があればよいと個人的には思います。そのポイントは、世の中の変化を体験し考える機会・チャンスを得ることです。

ヘブライ人への手紙の3章15節には旧約聖書の詩編95編7～8節を引用しまして、次の様に書かれています。〔(ヘブル書3:15)…「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、神に反抗したときのように、心をかたくしてはならない。」〕

併し、ヘブル書4章2節には次の様に書かれています。〔(ヘブル書4:2)…けれども、彼らには聞いた言葉が役に立ちませんでした。そのことばが、それを聞いた人々と、信仰によって結び付かなかったためです。〕この違い、即ち、「神の声を聞く」ことを無駄にしてしまった、活かすことをしなかったのです。

このヘブル書4章には著名な箇所がもう一つあります。4章12節、〔(ヘブル書4:12)…神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。〕聖書にもこの様な見事な言葉があるのです。つまり、私が申し上げたいことは、「神の声を聞く」には、心ここに在らずで聞くのではなく、「信仰によって」聞くことが大切、「神の言葉は生きており、力を発揮」するということです。

(5) きょうの聖書箇所の11章1節を見てみましょう。〔(ヘブル書11:1) 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。〕 ここには「確信し」と書いてあります。原文のギ

ロシア語の意味では「確信」は「保証すること、請け負うこと」です。現代的に言えば生命保険もそうですね。私は仕事で、保証や連帯保証・信用保証などを実務で行なってきましたので、この世の中で「保証」ほど確実なことはないのです。併し、逆に、見事な程に「空(から)手形」になることがありますので注意しなければなりません。人間の社会では「空(から)手形」になる時に、聖書は反対のことを言っているのです。11章1節には〔(ヘブル書11:1)信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。〕と書かれている、宣言されているのです。

江戸時代のお医者さん杉田玄白がチームを組んで、オランダ語の「解体新書／ターヘル・アナトミア」の翻訳を、医術の発展のためになると「確信し」悪戦苦闘・苦心惨憺していました。その悪戦苦闘を船の航海に例えて、次の様に書いています。「誠に艫舵(ろかじ)なき船の大海に乗り出(い)だせしが如く、茫洋(ぼうよう)として寄るべきかたなく、ただあきれにあきれて居(い)たるまでなり」杉田玄白83歳の時にその時を思い出しての文章です。この文章を読んだ福澤諭吉はこの文章を読むごとに「先人の苦心を察し、其(その)剛勇に驚き、其(その)誠意誠心に感じ、感極まりて泣かざるはなし」と書いているのです。人間は困難な状況にある時に、誠心誠意であることが困難を打ち砕くことになります。杉田玄白は83歳の年齢であっても、情熱の人、心の清いチャレンジ精神の人でした。私も斯くありたいとお手本にしています。

3節を見てみましょう。〔(11:3)信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉によって創造され、従って見えるものは、目に見えているものからできたのではないことが分かるのです。〕…ここには、この世界の元素とは何か、それが書かれています。中学校や高校で習う元素記号や元素の周期表のことを言っているではありません。目には見えない、神の言葉によってこの世界が出来ていることを示しています。目には見えませんが存在しているのです。「聖霊」もそうですね。今月発売の月刊誌「信徒の友」10月号文芸欄に私の短歌が入選しました。札幌の大通り公園に咲いているライラック(別名リラ)の花咲く初夏の風景です。冬には私のいた頃は氷点下15度の凍り付いた大地に初夏になるとリラの花が咲くのです。科学で説明が可能であっても、目に見えない聖霊の働きあればこそと驚くばかりです。

このヘブル書11章には「信仰によって」と言う言葉が沢山、これでもかと言う程に記されています。

繰り返すと言うことが大切なのです。野球も、剣道も、弓道も、聖書も、人間は繰り返して知恵を磨いて来た動物です。これからの気候変動に対応するためにも知恵を磨かなければなりません。次の世代のために私たち世代が背負わなければならない使命があります。

(6)13節には次の様に書かれています。〔(11:13)この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでした。はるかにそれを見て喜びの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。〕皆様はこの13節をどの様に読まれるでしょうか。「はるかにそれを見て喜びの声をあげ」と言うのは、自分たちの存命中に神の言葉が実現しなくとも、遠く遥(はる)か彼方から見て実現するとの確信を得られれば、自身の喜びとなるのです。

私事ですが、この7月に胃の半分を切除する手術を受けました。私の病状が医学上の研究材料になるとのドクターの説明に同意しましたところ、医師や看護師による綿密な対応の他に、看護学校の学生二人と教官からの観察を受けることになりました。若い男女の看護学生との会話の中から、私の病状が将来を担う看護学生のお役に立って欲しいと思うようになりました。いずれは私の命の燈火が消えるのですから、希望を持つことは限りある命にも喜びが与えられることを実感しました。

最後に16節を見てください。「彼らは更にまさった故郷(こきょう)、すなわち天の故郷(こきょう)を熱望していたのです。…神は、彼らのために都を準備されていたからです。」と書かれています。クリスチャンにはこの世での生活の状況の如何に拘わらず、「天の故郷(こきょう)」が用意されているのです。それは人生に生きる潤いとなり、エンジンにもなり得るのです。召天者の皆様は地上での生活を歩まれ、今は「天の故郷(こきょう)」におられ、皆様の生活を見守っておられることでしょう。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは秋、9月を迎え、本日は召天者記念礼拝の時を与えられました。懐かしい方々と向き合い、共に祈る時を与えて下さり有り難うございます。この地上に生きておられた日々のことを思い起こし、深い愛情を注いで下さったことに感謝いたします。私たちの至らなかったことをどうぞお許し下さい。彼の日の思い出を心の糧として、私たちの人生を歩んで参りますので、どうぞ、ご覧くださいませ様に。

秋は収穫の時です。私たちが、人々が日々の食べ物を得て生活できますように祈ります。

神が創造されましたこの地球上に生きる一人一人に平安・平和・希望が与えられますように。食べ物が乏しい人々に、災害や戦争の只中にある一人一人に慰めがありますように、お守りください。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン